

# マーケティング発想を追加し、 新たなビジネスモデルの創出に向かう

株式会社木村石鹼工業 製造業



## 企業情報

- 代表取締役: 木村 祥一郎
- 本社住所: 大阪府八尾市北亀井町2-1-30
- 創業年: 1924(大正13)年
- 資本金: 2,900万円
- 従業員数: 41名
- 業種: 製造業、石鹼などの自社ブランド



釜焚き製法

## 小さいときから 家業を眺めてきた

こだわりの石鹼を製造する木村石鹼工業は、現代表の木村祥一郎氏の曾祖父・木村熊治郎氏が1924(大正13)年に創業、父・幸夫氏の時に、法人化した。過去には、親族外の者に経営を委ねた時期もあったが、現在は、親族である祥一郎氏が事業を継いでいる。

祥一郎氏は、小学生の頃から、父に「家業を継いでもらう」と言われていたが、「下校して、工場を通して家に帰ることさえも嫌でした」と言うほど、家業に対して距離を置いていた。大学生の頃には、友人とインターネット関連会社を起業し、経営幹部として、東京に拠点を移すなど、多忙な日々を送っていた。その一方で、父は、独立した息子に

気を使い、社内の幹部人材に事業を託したが、経営方針の対立などもあり、経営が不安定になる時期もあった。そんな中、自社の現状を伝えるため上京した父が、東京駅で倒れ、事業遂行が困難となったため、祥一郎氏は、家業に関わらざるを得なくなった。当時、経営していた会社の京都事業所に拠点を移し、家業と掛け持ちしていたが、経営の細部まで確認できないなど中途半端な関わり方に違和感を抱いていた。

その頃、中小企業を応援したいという元企業経営者が現れ、父と意気投合し、父が会長(代表権あり)となり、彼が役員に就任した。

しかし、彼が導入した評価制度により、父の信頼する社員が退社するなど、社内の士気が下がり、不安定になっていたこともあり、祥一郎氏は、「自分が本腰を入れて関わる以外に、解決策はない」と改めて思った。

## 新たな売り方、営業の仕方で 家業に活気をもたらす

そこで、2013(平成25)年に、自身が経営するインターネット関連会社を退社し、木村石鹼工業に入社、2015(平成27)年副社長、2016(平成28)年代表取締役社長に就任した。まず、得意なWebサイト関連で成果を出そうと、外部向け情報発信を強化した。

そのために、プロのカメラマンに依頼し、石鹼を釜焚きするシーンなどを撮影、会社案内などを大きく変更した。頑固な父の反対は、不思議となかった。さらに、伝統的な石鹼製造手法である釜焚き製法と製品の良さを伝えたことで、興味を持った女性が開発メンバーに加わるなどし、対外的には情報発信



自社ブランド開発に取り組む

を強化、社内ではプロジェクトチームを発足させ、自社ブランド商品の開発を進めた。

現在、リカルド・セムラーが提唱した「従業員を信頼すれば、応えてくれる」とするセルフマネジメントを積極的に導入している。



アジア向け個人商品の開発・製造を加速するため、三重県に工業用地を取得、生産拠点の稼働に向けて準備中である。稼働すれば、生産量は、現在の10倍以上となり、企業の経営規模は拡大する。こうした将来に向けた事業計画を綿密に策定し、先代から承継した事業を発展させていく予定である。



### 事例の着眼点

- 事業承継で2度のつまづきを経験した企業が、最終的には親族内承継に至ったこと
- マネジメントの工夫を常に検討し、実践していること



### 事例企業が活用できる施策

- 経営承継円滑化法に基づく事業承継税制の活用
- 中小企業経営強化法による不動産取得税軽減の活用